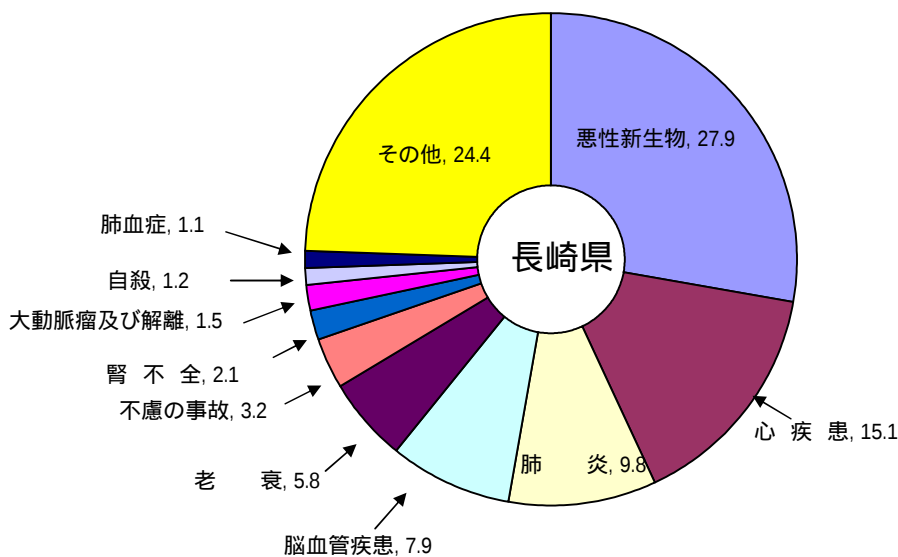
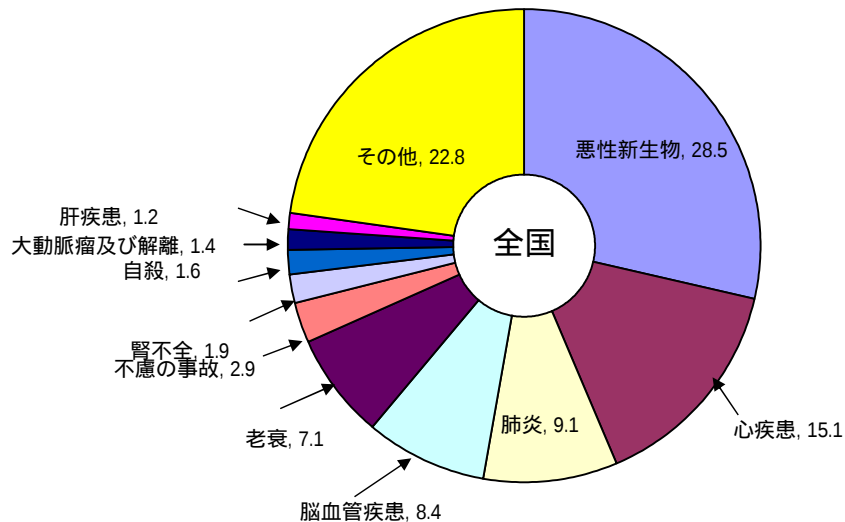


死因別死亡の概況



平成28年における本県の死亡数は、17,071人で、前年より216人増加し、人口千人当たりの死亡率では、12.6で、前年より0.3ポイント高くなっている。

なお、全国の死亡率10.5との比較では2.1ポイント高い(全国順位15位)。

死亡順位・死亡率(人口10万対)を主要死因別にみると、第1位 悪性新生物(ガン) 350.4、第2位 心疾患189.2、第3位 肺炎122.9、第4位 脳血管疾患99.4、第5位 老衰73.5であり、いわゆる三大死因の一つである脳血管疾患を肺炎が上回っている。

なお、本県の悪性新生物による死亡率は、全国の298.3に比べて52.1ポイント高い(全国順位11位)。

また、悪性新生物の死亡率(人口10万対)を部位別にみると、男では、気管、気管支及び肺101.7、胃50.4、肝及び肝内胆管41.4の順に高く、女は、気管、気管支及び肺41.7、結腸33.3、膵28.4、の順となっている。

(県福祉保健課)